

Close up 4

充実した研修プログラムを 実施する(社)日本ホテル協会

(社)日本ホテル協会(中村裕会長)は2006年夏、「ホテルマネジメント養成プログラム」をスタートさせた。その目的は「ワールドクラスのGMを養成すること」(同協会研修専門委員会・勝俣伸委員長)。マネジメント&オペレーションプログラム(MOP)、ホスピタリティ&ヒューマン・リソース・マネジメントプログラム(HHP)、衛生管理責任者育成コース(HSM)の3コースを、ホテルマネジメント養成プログラムの一環として開講した。いずれのプログラムも、外部の専

門機関との提携によって開発・運営されているのが特徴で、MOPはホテル人材育成で30年の歴史を有する(財)日本ホテル教育センター、HHPはチカライシヤンドカンパニー(株)そしてHSMはエコーボ(株)との協力によって実現したものである。

このなかで特にMOPは「部門管理者(支配人)コース」のひとつとして、ホテル各部門の管理者や教育担当者、ホテル計数管理のシステムを理解したい人などを対象にして、シティホテルコース、リゾートホテルコースの2つに分け、年2回開催。シティ、リゾートいずれのコースも、①計数管理能力の開発(計数分析の方法と実務)、②予算・計画の立案と実績の分析能力の開発(職場における予算・計画の扱い方)、③営業管理能力の開発(販売促進、営業分析や報告書のつくり方)、④主な経費に対する理解力の向上(人件費、材料費の見方など)が、主要目的だ。



(社)日本ホテル協会会長
中村 裕氏



(社)日本ホテル協会
研修専門委員会委員長
勝俣 伸氏

マネジメントの実際を疑似体験

07年8月には第3回マネジメント&オペレーションプログラム(MOP)が、専門学校日本ホテルスクールの会場にして24名の受講者が参加して開催された。このプログラム

は理論の講義を受けるのみにとどまらず、マネジメントゲームを取り入れた擬似的な実践体験をするところが最大の特徴。プログラムの運営を担当した(財)日本ホテル教育センターでは、30年前の設立当初から同様の手法を教育の現場に取り入れており、MOPのサポートにあたっては日本ホテル協会とともにオリジナルのプログラムを開発した。

第3回のMOP(シティホテルコース)の研修内容を大まかに説明すると、次のようになる。

●第1日……開講式・オリエンテーション、数値による自社ホテル紹介(経営シミュレーション)経営

の引継ぎと組織、社長就任挨拶、第17期の経営、第17期経営結果発表(講義)目標と計画(経営シミュレーション)第17期結果分析

●第2日……(講義)分析とは(経営シミュレーション)第18期の経営(演習)予想P/LおよびGOP算出、第18期経営結果発表、第19期の経営(演習)損益分岐点売上高、収益機能展開

受講生24名が、4人で1チームとなり経営チームを編成。各メンバーに社長、宿泊担当、料飲担当……といった役割を割り当てる。各チーム(ホテル)には個別に経営実績、経営環境が設定されており、それを分析したうえで意思決定、目標と戦略を練り、パソコンを使ってシミュレートするという作業をPDCAサイクルに従って繰り返していく。こうした擬似的な実務体験は、ケーススタディや講義を受けるだけのプログラムと比べて、かなり現実に近い形でマネジメントの実際を体得することができるといえる。

日本ホテル協会の研修専門委員会では、プログラムごとに参加者にアンケートを実施、その分析を次の研修プログラムの充実につなげている。